

21 世紀のモノづくり革新をめざして

日 時：2010 年 1 月 29 日（金）13:00 ～ 16:45

会 場：文京シビックセンター26 階 スカイホール（都営地下鉄三田線、大江戸線 春日駅直結）

主 催：横幹技術協議会、横幹連合

参 加 費：横幹技術協議会会員企業の関係者、横幹連合会員学会の正会員、学生は無料。

【上記以外】一般 5,000 円

参加申込：【事前登録】オンライン申込 http://www.trasti.jp/cgi-bin/forum_24_1.cgi?step=1

又は、下記の参加申込書にご記入のうえ、fax、電子メールにてお申し込みください。
（氏名、所属、連絡先 Email、TEL、参加費の支払い方法等をご明記ください。）

【当日申込】当日直接、受付へお越しください。（ただし定員に達し次第、受付終了となります）

【企画趣旨】「21世紀のモノづくり革新をめざして」

リーマン・ブラザーズの破綻などサブプライムローンに端を発した世界金融危機の中で、日本は不良資産が少ないにも拘わらず、実体経済の落ち込みは他の先進国に比べ大きかったと考えられる。近年における「世界の工場」としての中国の経済影響力の拡大、地球温暖化の進展、省エネルギーの必要性増大などグローバル環境下における百年に一度といわれる経済危機の時期に、日本の「モノづくり技術」が進むべき方向について十分に議論を行う必要がある。

「モノづくり」過程の範疇には、マーケティング、設計・開発、製造から運用、廃棄、リサイクルにいたる広範囲のプロセスが含まれており、「モノづくり」の対象としては、自動車や電機製品以外のソフトウェアやサービスなども考えられるようになってきている。さらに、近年では、ベビーブーム世代の退職に起因する「モノづくり」人材育成も極めて重要な課題となっている。

このような背景のもと、本フォーラムでは、製造業で世界の中で日本が生き延びるための「モノづくり」を考える上で重要と考えられる3つの視点、すなわち、(1)グローバル環境下でのモノづくり、(2)品質および信頼性からモノづくり、(3)人と環境にやさしいモノづくり、に関連した講演をいただくとともに、今後の「モノづくり」革新技術についての概説をいただくこととした。

【プログラム】

総合司会 澤田一哉（パナソニック電工(株) 先行技術開発研究所 技監）(敬称略)

13:00-13:10	開会あいさつ	桑原 洋 (横幹技術協議会 会長)
13:10-13:40	◆講演 1 「グローバル環境化におけるモノづくり革新」	荒井 栄司 (大阪大学大学院工学研究科 マテリアル生産科学専攻 教授)
13:40-14:10	◆講演 2 「21世紀も勝つモノづくり」	小畑 外嗣 (パナソニック電工(株) 参与)
14:10-14:40	◆講演 3 「電気自動車の量産技術 ―自動車におけるモノづくり技術の革新―」	中原 俊憲 (三菱自動車工業(株) MiEV 商品生産 化プロジェクト プロジェクトマネージャー)
(14:40-14:50	休憩)	
14:50-15:20	◆講演 4 「品質と信頼性の観点から見たモノづくり革新」	鈴木 和幸 (電気通信大学 システム工学科教授)
15:20-15:50	◆講演 5 「人間中心のモノづくり ―デジタルヒューマン技術の最先端―」	持丸 正明 (産業技術総合研究所 デジタルヒューマン研究センター 副センター長)
15:50-16:45	パネルディスカッション	司会：杉村 延広 (大阪府立大学大学院工学研究科 機械系専攻 教授) パネリスト：講演者 5 名
	閉会の挨拶	舘 暲 (横幹連合 副会長)

21 世紀のモノづくり革新をめざして

2010 年 1 月 29 日 (金) 13:00 ~ 16:45 (文京シビックセンター26 階 スカイホール)

【 講 演 要 旨 】

(敬称略)

講演 1

「グローバル環境化におけるモノづくり革新」

◆ 荒井 栄司(大阪大学大学院工学研究科 マテリアル生産科学専攻 教授)

モノ作りにおける最近のキーワードはグローバルであると言われている。しかし、その内容は多岐にわたり、異なるビジネスモデルが混在して包含されている。企業、部門においては、それらのどれを目指すかによりモノづくりの方針が大きく異なる。多様なグローバル化戦略は生産技術だけでなく、モノづくりの基本である製品設計にも影響する。そこで、グローバル化とは何かを改めて考え直し、製品設計から生産技術までの生産システム全般に渡るモノづくり技術の考え方を議論する。

講演 2

「21世紀も勝つモノづくり」

◆ 小畑 外嗣(パナソニック電工(株) 参与)

「高度情報化社会」「グローバル化」「市場ニーズの多様化」「環境調和型社会」「少子高齢化」そして「世界同時不況」など、企業環境がドラスティックに変化し続ける 21 世紀においても「日本のモノづくり」が勝ち続けるためには、『21 世紀のモノづくり方針』を策定し、その実現に向けて『構造改革、体質改革、生産技術革新』を推進すべきである。本フォーラムでは、その取り組み内容について、パナソニック電工の事例をまじえて紹介する。

講演 3

「電気自動車の量産技術 – 自動車におけるモノづくり技術の革新 –」

◆ 中原 俊憲(三菱自動車工業(株) MiEV 商品生産化プロジェクト プロジェクトマネージャー)

世界環境デーとなった“2009 年 6 月 5 日”に、クルマ社会の次の 100 年の扉を開くパイオニアとして新世代型の電気自動車『i-MiEV(アイ・ミエフ)』を公表し、7 月より国内市場に投入した。自動車が直面する課題に対応する究極の環境車として、現在の自動車を取り巻く情勢と環境改善への取組みを踏まえ、今回実現した電気自動車の仕組み及び目指してきたモノづくりの量産技術への取組み、技術革新と今後の展望について紹介する。

講演 4

「品質と信頼性の観点から見たモノづくり革新」

◆ 鈴木 和幸(電気通信大学 システム工学科教授)

品質管理学・信頼性工学と高度情報通信技術の知を融合した次世代品質信頼性情報システム QRIS(Quality and Reliability Information System)を開発し、QRIS に基づく高品質・高信頼性モノづくりの標準プロセスを創生することにより、①顧客への個別対応リスクコミュニケーションを通じた国民の安心安全、②高精度シミュレーションに基づく高品質・高信頼性新製品開発を通じたわが国産業界の国際競争力強化、③信頼性工学の情報化時代に即した刷新、を目的としたモノづくり革新を提案する。

講演 5

「人間中心のモノづくり – デジタルヒューマン技術の最先端 –」

◆ 持丸 正明(産業技術総合研究所 デジタルヒューマン研究センター 副センター長)

計算機上での製品設計段階でユーザの使用状況を再現し、人間中心のモノづくりを支援するデジタルヒューマン技術について講演する。ユーザの個人差を機能的に再現することを目指し、人類学、バイオメカニクス、ロボット工学、CG 技術を融合して、全身体形、機能的関節構造の再現、モーションデータベースを活用した運動再現、詳細な手の機能(サイズ、把持姿勢、操作姿勢、指先変形)の再現と、それらの可視化統合プラットフォーム「Dhaiba」の研究開発を進めてきた。その最新成果を紹介する。

<第24回横幹技術フォーラム 申込書>

1.お名前： _____ 2.ご所属： _____

3.電子メール： _____ 4.TEL： _____

5.参加費区分：※該当するものに○印をつけてください。

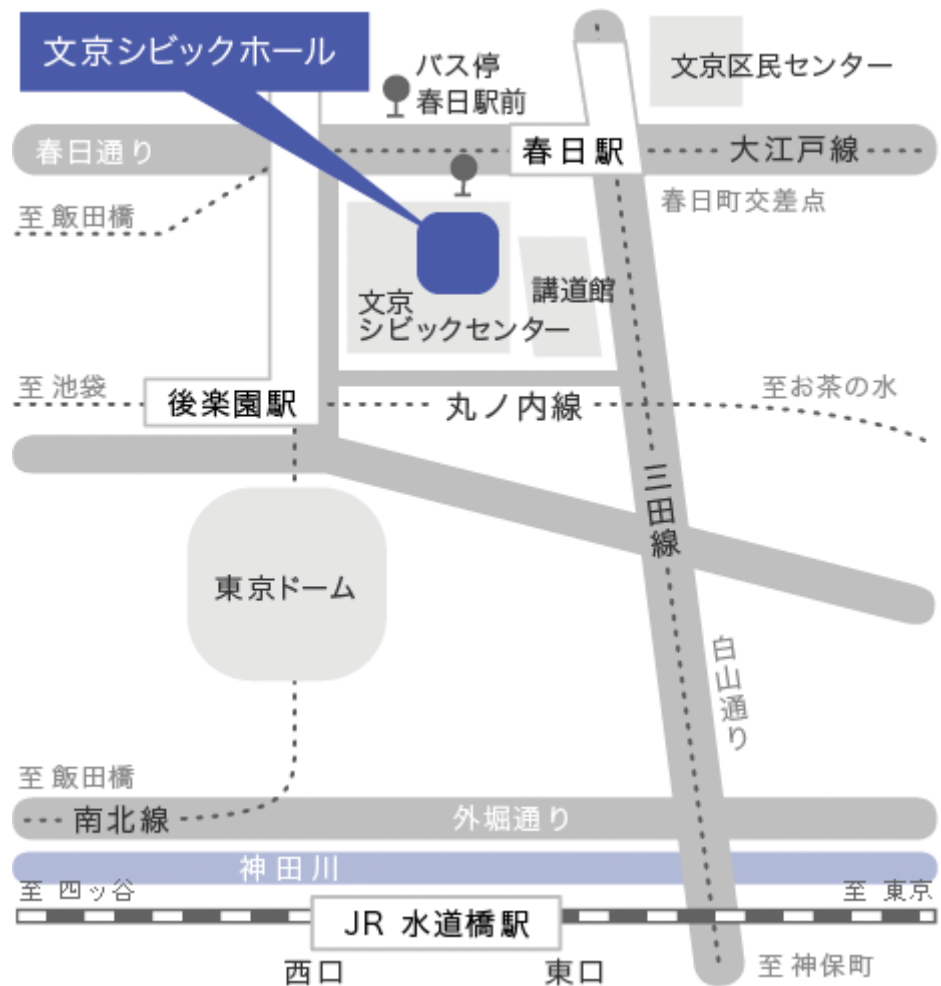
- (a) 横幹技術協議会会員企業の関係者 (b) 横幹連合会員学会の会員 (学会名： _____ 学会)
(c) 学生 (d) その他

6. 上記5で「(d) その他」に該当する方のみ、参加費についてご記入ください：

- a) 請求書送付が**必要**な場合：【郵送先・ご請求書の宛名書き】〒 _____
b) 請求書送付が**不要**な場合：銀行振込予定 ____月 ____日頃 振込人名義 _____

【お申し込み先】横幹技術協議会 事務局 フォーラム係 tel & fax : 03-3814-4130 email : office@trafst.jp
【お振込先口座】三菱東京UFJ銀行 本郷支店 普通口座 4524554 横幹技術協議会 (オウカンギジュツキョウギカイ)
※銀行振込手数料はお振込主様にご負担ください。

交通案内



シビックホール所在地：〒112-0003 東京都文京区春日 1-16-21

問い合わせ：03-5803-1100 (財)文京アカデミー施設管理係